

クリーンヘルスセーフティを

キーワードに市場開拓目指す

興研

地道な努力の積み重ねの上に新商品が生まれる



興研会長 酒井 眞一郎氏

マスク、内視鏡洗浄消毒装置、クリーンルーム。これら分野で世界で唯一の技術を開発し、世界初の製品を次々と世に送り出す企業がある。興研は、1963年に防じんマスクで創業。マスク以外に事業領域を広げ、ユニークな人事評価制度で社員を育て、現在の地位を築き上げた。2代目を務めた酒井眞一郎会長に、強さの秘訣と今後の展開を聞いた。

強さの秘訣

井水 御社は防じんマスクからスタートして以来、技術革新をもちろし続け、最近では全く新しいマスクを開発するなど、同分野のトップの座を不動のものにしていきます。さらにマスクにとどまらず、医療分野にも拡大し、全自動内視鏡洗浄消毒装置などを開発しました。この装置は弊社の十大新製品を受賞するなど、手掛ける製品は世界初で、世界に御社しかない技術によるものではないかと。

戦略商品

井水 次派な理念を打ち出した。これに対し、トップが陣頭指揮をとり、理念を浸透させ価値観を共有する。そういう仕組みを作り、実行されてきた。それは大変素晴らしいことです。

クリーンビジネス

井水 お話で分かるように御社のイノベーションはさらに進化を続けています。その代表的な製品の一つであるオープンクリーンシステム「KOAACH」は六面体の囲いを不要にするなど、これまでのクリーンルームの概念を根本から革新し、国内外で注目されています。私自身も展示会で驚きました。天井がなくても、ISOレベル1まで短時間で到達する「魔法の箱」として人気があります。破壊的な、全く新しい発想のイノベーションだと思えます。詳しく、お話し下さい。

独自の人事制度

井水 こうした優れた製品を次々と生み出す人材が気になります。御社には、ユニークな人材育成システムがあり、それが各部門にわたって有機的に機能しているように思えます。

第二創業者として

井水 いいお話を聞きました。酒井会長は創業で美談の義次郎氏から経営を引き継がれて、業務を拡大し株式を上場しました。また35年間経営者として、酒井氏が経営者になってから35年、父の代も累積すれば60年赤字を出したことはありませんが、私は基本的には二世経営者ですが、時代においてききりにされるのでは、という恐怖心を人一倍持ち続けています。そうしたいと考えています。

展望

井水 日本で成功されている経営者は、心の底から世の中に貢献すると思いで経営に取り組まれているように思っています。最後に、御社の今後を展望していただきたいと思います。来年創業70周年を迎えられますが、飛躍への展望をお聞かせください。



プレスリンク(呼吸追従形)プロローマスク「サカサ式 BL-1005」



全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」



オープンスーパークリーンルーム「フロアコートEz」



ナノファイバーフィルタ「FERENA」



さらには、斬新なクリーンルームを開発し、大きな関心を集めています。真に優れた技術開発型企業は、経営にも優れていると言われますが、御社は厳しい経済環境が続く中、35年間一貫して、経営黒字を継続しています。本日は、御社の技術開発の優秀性と人材力、長きにわたる経営黒字の秘訣に迫りたいと思います。はじめに、御社の基本方針や研究体制についてお話し下さい。

酒井 私どもは「人のまねをすればいい」という研究姿勢を、この「セーフティ」の分野でも掲げたいと考えています。研究開発費も売上高の7.8%で、特別に高い数字ではありません。ただし、当社が世間の会社と違うところは、標語の運営を徹底させていることかもしれません。私は社長に就任したとき「マスクは汚いものをクリーンにし健康を守っている。これは広い意味で『セーフティ』の分野なので『クリーンヘルス、セーフティ』の仕事をして」との方針を打ち出しました。この範囲ならマスク以外でもやっていると、研究者に発想の自由を持たせました。以降、毎月1回、研究発表会を定例化しました。研究の成果を、トップ全員が集まる前で発表するわけです。トップが研究開発動向を的確に把握し、合わせて最適な人事制度を作り「まねをしない」という基本理念を30年かけて社内に浸透させた結果、世の中になかったものが生まれています。

井水 呼吸で反応するので楽です。呼吸はセンサーで感知するのですか。

酒井 動圧を感知する仕組みです。吸う空気はフィルタを通してプロローが送り、吐く空気は弁を通して出す構造です。一般に微差圧計は微弱な動圧を測るときに、振動があると正しく

機能しないのですが、この弁は振動に強いのです。この弁の動きを感知する動圧センサーによって人の呼吸に追従できること、突き止めた。マスクの機能をよく知らないといけない発想です。

井水 画期的な技術ですね。重装備ではないので、装着しても楽に楽です。

酒井 外国のプロローマスクは顔に付けられないほど大きいのですが、これなら作業者が負担を感じることなく使用できます。当社の営業マンが全国で約16万人を対象にマスクのフィットテストを行い、マスクの漏れとフィットの重要性の啓蒙、そして安全性の高いプロローマスクの普及に努めています。

井水 お話で分かるように御社のイノベーションはさらに進化を続けています。その代表的な製品の一つであるオープンクリーンシステム「KOAACH」は六面体の囲いを不要にするなど、これまでのクリーンルームの概念を根本から革新し、国内外で注目されています。私自身も展示会で驚きました。天井がなくても、ISOレベル1まで短時間で到達する「魔法の箱」として人気があります。破壊的な、全く新しい発想のイノベーションだと思えます。詳しく、お話し下さい。

井水 ある日、突然、破壊的な発想ができるようになったのは、地道な努力の積み重ねの上にあると思います。当社ではマスクメーカーですが、本来であればマスクを使わない環境を作ることが理想です。そこで、環境改善システムの仕事を始めました。

井水 それぞれの地道な努力がある中で、奇跡的に結果が出たのです。私は、革命的な技術だと思っています。クリーンルームを求められている業界は多く、広い市場があると思います。

井水 こうした優れた製品を次々と生み出す人材が気になります。御社には、ユニークな人材育成システムがあり、それが各部門にわたって有機的に機能しているように思えます。

酒井 社長就任後、新しい人事制度として、3軸独立評価システムを作り出しました。1人の人材を3つの評価軸でみるものがあります。一つは管理職で、次に各分野で豊富な知識や技能を有する人を対象にしたもの。三つ目は、会社に実績を上げた人を、実績だけで評価するものです。全てで優秀である必要はない。

井水 どのよう能力を発揮

興研株式会社

本社 東京都千代田区四番町7番地
 創立 1963年12月設立
 資本金 6億7400万円
 売上高 88億7900万円
 従業員数 215人
 Webサイト <http://www.koken-ltd.co.jp/>